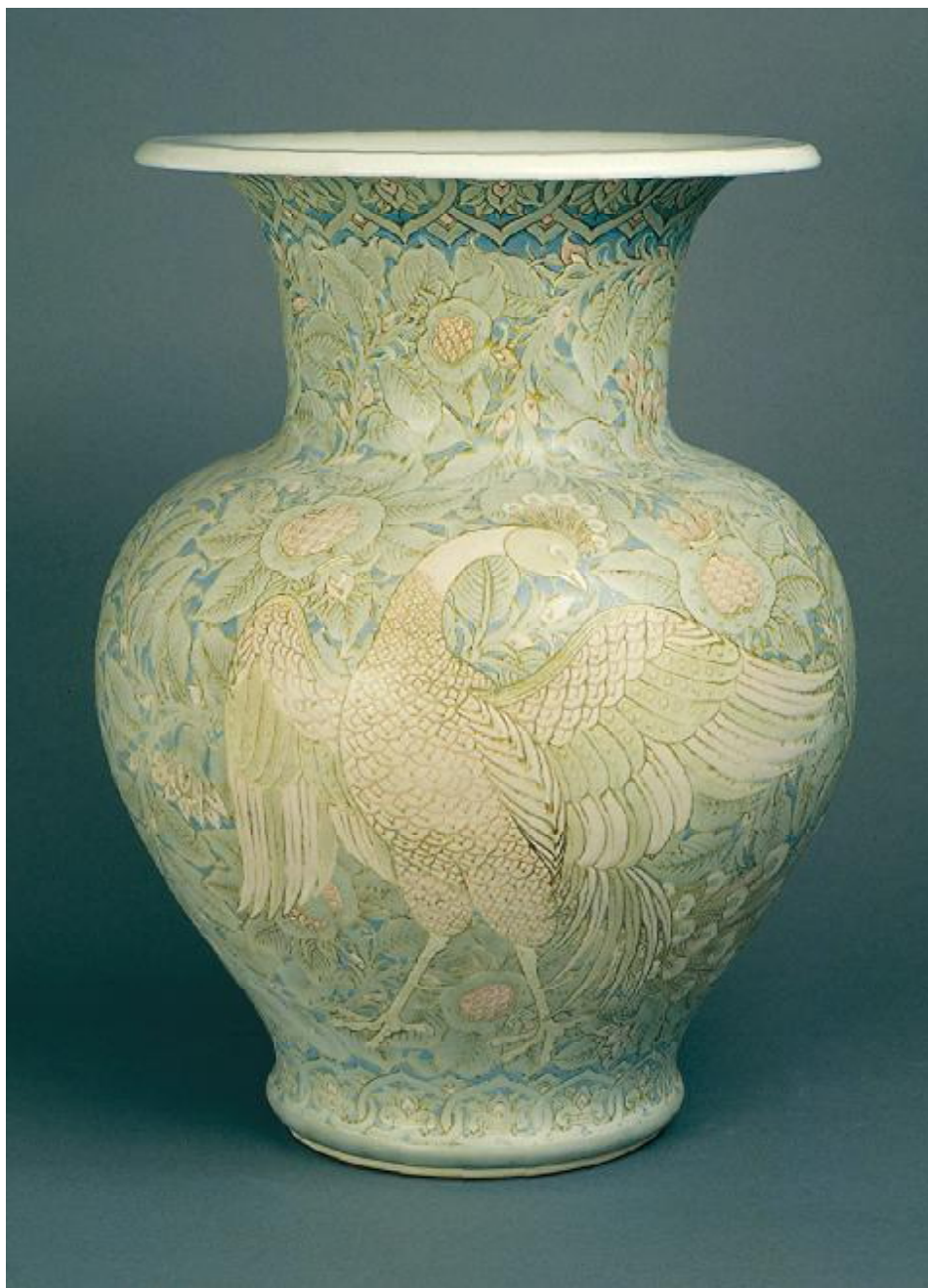


People 4.15 2006



彩磁禽果文花瓶 大正 15 年(1926)作 高 54.1 cm 口径 36.2 cm 胴径 39.5 cm

大形花瓶の表面全体に薄肉彫りで孔雀やザクロなどの文様を見事に表し、藍・桃色・緑・紫で彩色し、その上に全体にむらなく掛けられた透明釉も完璧な仕上がりを見せています。大正 15 年の東京府美術館開館記念 聖徳太子奉賛美術展に出品されたもので、完成までに 3 年余りを費やしたといわれています。波山が最も精魂を傾けた作品で、動植物文様を主題にして優美な曲線文様として表現するアールヌーボー様式による大作の集大成として制作したものです。記念碑的な作品であるとともに、波山を代表する作品のひとつといえます。同作品については、平成 7 年に旧下館市が制作した広報ビデオ『心ありき 陶芸家 にんげん 板谷波山』でも紹介されています。

板谷波山作『彩磁禽果文花瓶』が 国の重要文化財に指定

筑西市出身の陶芸家・板谷波山(明治 5 年〜昭和 38 年、名誉市民・文化勲章受章者)の作品『彩磁禽果文花瓶』が、重要文化財(美術工芸品)に指定されました。同作品は、新潟市にある敦井美術館が所蔵。波山作品の重要文化財指定は、泉屋博古館分館(東京都港区)所蔵の『葆光彩磁珍果文花瓶』が、近代陶芸作品として初の指定を受けて以来 2 作品目です。